

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 19 年 2 月 1 日 (2007.2.1)

【公開番号】特開 2005-191159 (P2005-191159A)  
 【公開日】平成 17 年 7 月 14 日 (2005.7.14)  
 【年通号数】公開・登録公報 2005-027  
 【出願番号】特願 2003-428573 (P2003-428573)  
 【国際特許分類】

**H 0 1 L 23/04 (2006.01)**  
**H 0 3 B 5/32 (2006.01)**  
**H 0 3 H 9/02 (2006.01)**  
**H 0 1 L 25/065 (2006.01)**  
**H 0 1 L 25/07 (2006.01)**  
**H 0 1 L 25/18 (2006.01)**

【F I】

H 0 1 L	23/04	E
H 0 3 B	5/32	H
H 0 3 H	9/02	A
H 0 3 H	9/02	K
H 0 1 L	25/08	Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下面を開口とする凹部を有すると共に該凹部を囲む側壁底面に実装用パッド電極を備え、前記凹部に電子部品を收容する構造の電子デバイス容器であって、前記実装用パッド電極が前記側壁の凹部側に折り曲げて拡大形成されていることを特徴とする電子デバイス容器。

【請求項 2】

前記容器は上面を開口とする第 2 の凹部を備えており、該第 2 の凹部にも電子部品を收容することが可能なことを特徴とする請求項 1 に記載の電子デバイス容器。

【請求項 3】

下面を開口とする第 1 の凹部と上面を開口とする第 2 の凹部とを有すると共に前記第 1 の凹部を囲む側壁底面に実装用パッド電極を配設した容器と、前記容器の第 2 の凹部に收容した圧電振動素子と、前記容器の第 1 の凹部に收容した発振回路を構成するための電子部品とを備えており、前記実装用パッド電極が前記側壁の凹部側に折り曲げて拡大形成されていることを特徴とする圧電発振器。

【請求項 4】

前記実装用パッド電極を、圧電振動子と接続するための接続電極として用いたことを特徴とする請求項 1 に記載の電子デバイス容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 3 】

図 2 は、圧電デバイスの従来例としての、特開 2 0 0 0 - 1 0 1 3 4 9 号公報に開示された水晶発振器のパッケージ構造を示す縦断面図である。

同図に示されるように、本水晶発振器 2 0 は、上面に凹部（第 2 の凹部）2 1 を形成した容器 2 2 の前記凹部 2 1 の底部に水晶振動子 2 3 を装着し、金属蓋 2 4 で前記凹部 2 1 を密封した、該容器 2 2 の横断面形状が略長方形の振動子パッケージ 2 5 の外底面に、その横断面外周の形状が前記容器 2 2 の横断面外周の形状と一致する環状の台座 2 6 を固着して、該環状台座 2 6 と前記容器 2 2 の外底面とで形成される凹部（第 1 の凹部）2 7 底面に形成された図示しないパターン電極に発振回路部品 2 8 を装着した構造を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

さらに、前記第 2 の接続電極 5 1 は第 2 の容器 4 7 内部に設けられた他の内部接続導体 5 2 によって、第 2 の容器 4 7 の側壁 4 7 a 底面四隅に設けられた実装用パッド電極 5 3 に接続されている。

この実装用パッド電極 5 3 が、装置等の印刷配線基板のパターン電極にはんだ付け等によって装着されることによって、装置側から水晶発振器 4 0 への電源電圧の供給を受け、あるいは、本水晶発振器 4 0 から装置側へ発振出力を供給する。

【特許文献 1】 特開 2 0 0 0 - 1 0 1 3 4 9 号公報

【特許文献 2】 特開 2 0 0 1 - 1 6 0 3 6 号公報